

特集号に寄せて

社会学部長 牧 正 英

社会学部では、学部開設35周年を記念して、1996年10月14日から21日の8日間、フランス国立社会科学高等研究所教授のオーギュスタン・ベルグ先生を特別講師として招き、記念講演会、学部研究会、そして市民を対象としたオープンセミナー（市民、公開講演会）等を開催した。このたびこの講演を記念して、特集号を公刊する運びとなりましたことを皆様とともにお慶び申し上げます。

1995年3月、毎年、開催する社会学部恒例の懇談会の席上、すべてのスタッフが参集し、学部の将来について、長時間にわたり討議を行なった。その結果、1996年度に学部開設35周年を記念して、学術講演の開催と社会学発祥の地であるフランスとドイツの大学との学術交流協定を進めることが話し合われた。

社会学部では、早速、社会学部35周年記念行事準備委員会（委員長 森川甫、委員 紺田千登史、真鍋一史、宮原浩二郎、荻野昌弘の5人の先生方と事務局）を結成し、1996年1月には、委員会より下記の提案がなされた。提案の内容は、フランス国立社会科学高等研究所教授、オーギュスタン・ベルグ先生の招聘と記念講演会、学部研究会、全学・オープンセミナー、学部主催のレセプション等の開催である。

そこで行われた記念講演の内容を簡単に紹介すると、1996年10月16日の開設記念講演会では、「和辻哲郎の風土論におけるアイデンティティの問題」について多くの学生、教職員、学外の研究者が参加した。ここでベルグ先生は風土性について和辻哲郎に触発されたこと、そして和辻の説を批判研究して、「風土性」の新しい視点が示され、多くの聴衆の感動をよんだ。また、10月19日のオープンセミナーでは、「場所を生かすとは」と題し講演が行われ、これに関連したプログラムとして学内の共同研究が中心となって、千刈セミナーハウスにおいてオーギュスタン・ベルグ先生の著作について、また、ベルグ先生を囲んでの研究討議が18日、19日とこれまた多くの学内外の参加者とともに夜遅くまで論議が重ねられた。

ベルグ先生は1984年から1988年にかけて、東京の日仏会館館長に就任された時期に学院に招き講演会「日本の風土性とアメニティ問題」を開催している。また、少しさかのぼるが、1982年にはパリの現代日本研究所長に就任したベルグ先生を森川甫先生らが訪問し、フランスの日本研究について鼎談し、その記事は当時の関西学院クレセント誌に「フラン

スの日本研究—エリセエフからベルグまで」と題して掲載されている。

ベルグ先生の風土性の研究は大変有名で、この点はNHKテレビの「人間大学」でみせた流暢な日本語とソフトな語り口は、先生の風土性の学問的成果をより一層高める結果となった。また、先生は外国人で優れた日本文化の研究者におくられる「山片蟠桃賞」の有力な候補者にもなっている。そして、近年では、環境問題に関する著書として、「地球と存在の哲学—環境倫理を越えて」と題した邦訳が出版されている。

このように早くからベルグ先生の学問的発展に着目し、関西学院との交流と今日の、また21世紀の環境問題に新たな視点をあたえる彼の風土性の展開に関する数々の業績を讃えて、このたびの来院を機に1996年10月16日、ランバス記念礼拝堂において関西学院大学から名誉博士の学位を贈った。

以上のように、ベルグ先生の風土性の研究、すなわち、風土学は単なる個別的な日本研究の領域を越えて、地理学、社会学、哲学等の分野に大きな影響を及ぼし、特に空間論、文化論に新たな知見をもたらしている。このような意味からこのたび本誌に掲載されている3編の論文、「空間の問題」、「中国の風景、ヨーロッパの風景」、「象徴的形態としての日本の風景」はまさにその神髄が示されており、この内容は関西学院大学全学の教職員に強い関心を引き起こすものと考えられる。

社会学部では、このように学内外の大きなご協力とご支援をもとに、学部として1997年5月、これまでの一連の学術交流促進のために、森川甫、真鍋一史の両先生ともに独仏の両研究所を表敬訪問し、交流を深めた。そして、ベルグ先生の所属するフランス国立社会科学高等研究院現代日本研究所との学術交流協力に関する協定の案件、そして、ドイツ、ボン大学日本文化研究所 所長ヨーゼフ・クライナー教授との学術交流協力に関する協定案件が1997年7月4日の大学評議会で承認され、同月22日付けで協定を発効した。これにより、1998年の秋には、フランス側の交流の第1号として、当日本研究所所長のベルグ先生が決定した。先生に再びお会いできる日を楽しみにますますのご活躍を祈ってやみません。

名誉学位関係書類

(1) 名誉学位記

割印	第 22 号
	名 誉 学 位 記
	France
	Augustin Berque
	貴下は学識顕著にして文化の発展に対する貢献多大なるをもって 関西学院大学名誉博士の学位を贈る
	1996年10月16日
	関 西 学 院 大 学 印

(英 文)

Kwansei Gakuin University on the recommendation of the University Council and the Board of Trustees has conferred the degree of

Doctor of Laws

upon

Augustin Berque

in virtue of his contribution to the advancement of culture.

Given on the 16th of

October, 1996

(2) オギュスタン・ベルク教授の略歴と業績書

(略 歴)

1942年9月6日生 満55歳

モロッコ ラバト

国籍 フランス

(学 歴)

1953～1963 パリ大学

1960～1964 東洋語学校

1963～1964 オックス・フォード大学に留学

1965～1967 東洋語学校

1967 修了証書(中国語)を得る。

1969 パリ大学の地理学博士(第三課程博士)の学位を得る。

論文題目 *Hiérarchies commerciales du département des Landes*. (ランド地方の商業的階層)

1977 パリ第4大学(パリ・ソルボンヌ)の文学博士(国家博士)の学位を得る。

論文題目 *Les grandes terres de Hokkaido, étude de géographie culturelle*. (北海道の大地、人文地理研究)

(職 歴)

1979 フランス国立社会科学高等研究院現代日本研究所教授(在職中)

1984～1988 東京日仏学院フランス学長

(賞 罰)

1991 地理学学会賞

1991 功労賞(環境省)

1991 地理学ヨーロッパ・アカデミー会員

1995 日本文化デザイン賞

業績書 —主要著作—

* *Le Japon : gestion de l'espace et changement social*. Paris, Flammarion, 1976.

* *La rizière et la banquise : colonisation et changement culturel à Hokkaido*. Paris, Publications Orientalistes de France, 1980.

* *Vivre l'espace au Japon*. Paris, Presses Universitaires de France, 1982.

—空間の日本文化、宮原 信記(筑摩書房)1985

- * *Le Sauvage et l'artifice : les Japonais devant la nature*. Paris, Gallimard, 1986.
— 風土の日本、自然と文化の通態 篠田勝英訳 (筑摩書房) 1988
- * *Médiance : de milieux en paysages*. Montpellier/Paris, RECLUS/Documentation Française, 1990.
— 風土としての地球 三宅京子訳 (筑摩書房) 1994
- * 日本の風景、西欧の景観、そして造景の時代 篠田勝英訳 (講談社現代新書) 1990
- * *Du geste à la cité : formes urbaines et lien social au Japon* Paris, Gallimard, 1993.
— 都市の日本、所作から共同体へ 宮原 信、荒木 亨訳 (筑摩書房) 1996
- * 都市のコスモロジー、日 米 欧都市比較 篠田勝英訳 (講談社現代新書) 1993
- * *Les raisons du paysage : de la Chine antique aux environnements de synthèse*. Paris, Hazan, 1995.
— 日本風土性 NHK 人間大学 (教育テレビ 1995, 10-12月期) 1995
- * *Etre humains sur la Terre. Principes d'éthique de l'écoumène*. Paris, Gallimard, 1996.
— 地球と存在の哲学、環境倫理を越えて 篠田勝英訳 (筑摩新書) 1996

(3) 功績調査

1. 専門領域における業績

オギュスタン・ベルク氏は、パリ大学で地理学、東洋語学校で中国語を修めた後、1969年に来日し、フランス語講師として東京、北海道などに長期に亘って滞在した。このとき以来、ベルク氏は、地理学とフランスのシナ学の教養に加えて、日本古典の文献解読能力に裏付けられたベルク学とも呼ぶ独自の独創的な日本研究を展開している。それは、古典研究などに終始しがちなフランスの日本研究に地理学と比較社会学の視点を導入し、現代日本社会とそれが孕んでいる歴史性を分析することで、日本人研究者にはなかなか気づくことのできない日本社会の特質を明らかにすることに成功している。また、その研究を通じて得た独得の「風土学」は、単なる個別的な日本研究の領域を越えて、地理学、社会学、哲学等の分野に大きな影響を及ぼし、特に空間論、文化論に新たな知見をもたらしている。10冊の単著をはじめとする膨大な著書、論文は、これを端的に物語っているといえよう。

2. 社会的活動

ベルク氏の功績は学術にとどまらない。日本とフランスというそれぞれ個性のある文化を持つ社会の橋渡し役として、数多くの学術交流を組織し、成功に導いている。特に、1984年から1988年にかけて、東京日仏会館のフランス学長として日本に滞在し、3年に一度定期的に開かれている日仏学術シンポジウムの開催を取りまとめたり、東京都の景観保全の諮問委員として、東京におけるまちづくりに具体的な提言を行うなど、日仏文化、学術交流において中心的役割を果たした。また、NHK テレビの「人間大学」で見せた流暢な

わかりやすい日本語の語り口は、学問の成果を象牙の塔の中に留めるのではなく、広く社会一般に還元しようとする姿勢の現れである。しかも、このような学問の社会への還元をフランスと日本の双方で行っているという点で、ベルク氏は真の国際貢献を果たしている。

3. 関西学院との関わり

今後、関西学院大学社会学部が、より世界に開かれ、世界における文化発信の一拠点となる上で、社会、人文諸科学できわめて重要な役割を果たしてきたフランスとの学术交流は不可欠である。そのためにはまず、学术交流のキーパーソンとなるような人物と接触、交流する必要がある。このような人物として、日仏の学术交流において重要な役割を担っており、しかも関西学院とすでに交流があるベルク氏は理想的な存在である。

ベルク氏と関西学院との関わりは、1982年にさかのぼる。当時、パリに留学中だった社会学部森川甫教授、竹岡敬温大阪大学教授がベルク氏とフランスにおける日本研究について鼎談し、それが本学院の『クレセント』誌に掲載されたのが、学院との「出会い」である。その後、関西学院で「日本の風土性とアメニティ問題」についての講演を行っており、関西学院とは20年近い付き合いがある。今後、社会学部のみならず関西学院全体が、ベルク氏の所属する社会科学高等研究院をはじめとするフランスの高等教育研究機関と交流を深めていく上で、学院と関わり深いベルク氏には多大な貢献を期待することができる。

以 上

1996年7月3日

真 鍋 一 史

対 馬 路 人

紺 田 千 登 史

荻 野 昌 弘